

～ 危険の芽を摘みとろう～

リスクアセスメントで未然に労働災害を防ぎましょう！

危険予知活動とリスクアセスメントは別物です！

建設現場では、危険予知ミーティングが定着し、これをさらに発展させ、リスクアセスメントの手法を取り入れたリスク危険予知（KY）活動等も進められています。

しかし、これらの多くは作業に掛かる直前に行われており、主として個々の作業者を対象とした**作業行動面の対策となっています。**

これに対し、リスクアセスメントは、**施工計画時等に十分に時間をかけて実施し、作業の段取りや手配に支障がないよう、主として設備面や適正配置等の問題を解決しておくなど労働災害防止対策の根幹をなすものです。**

また、その経費は、原価に反映されることから、**現場任せとせず、店社の責任者や経営者が責任を持って実施していくことが不可欠です！**



危険予知活動とリスクアセスメントの違い

実施	危険予知(KY)活動	リスクアセスメント
目的	決められた環境、工程の中で「どんな危険が潜んでいるか」を作業者が共有化し、危険のポイントと行動目標を定めること。	各種情報から工種や作業に対し、事前に施工計画を検討する際などに、危険性又は有害性を調査、評価（見積り）し、より安全な工法や設備を選択し、施工の際の危険性等を低減すること。
時期	作業日の作業開始前	工事着手前(設計、工法選択段階)、施工計画変更時、等
単位	現場ごと	主に店社
実施者	現場監督、作業者（現場主体）	主に店社の安全衛生責任者、現場監督、職長（支援者）（店社主体）
対象物	作業行動や作業環境、設備に潜在する危険性（主にソフト面を対象）	施工計画、工法、作業標準、使用機械等に潜在する危険性（主に本質的安全、ハード面を対象）

危険予知活動とリスクアセスメントは表のように**目的が異なるので、一体的に活用することで一層有効なものとなります。**





リスクアセスメントの効果

リスクアセスメントは施工に潜む労働災害の原因となる「**危険の芽**」を**事前に摘みとる**ことで施工着手前に安全性の高い現場づくりを実現することができます。

具体的には、リスクアセスメントの実施を通じて以下の効果が期待できます。

現場の**危険性（リスク）**が**明確**になる。
現場のリスクに対する認識を管理者を含め**全体で共有**できる。
安全対策の**合理的な優先順位**を決めることができる。
残留リスクに対して**ルールを守るべき理由**が明らかになる。
店社を上げて取り組むことで関係者の「**危険への感受性**」を高められる。

リスクアセスメントを始めましょう！

リスクアセスメントは以下の流れで進めます。QRコードの支援ツール等も活用し、より安全な現場を目指して取り組みを始めましょう。

準備段階

実施体制の整備

- ・ 店社のトップによる決意表明
- ・ 統括管理者、実施担当者の選任
- ・ 安全衛生委員会等を活用した労働者の参画
- ・ 建設作業所における関係請負人を含めた体制づくり

実施時期の決定

- ・ 店社による定期的な時期
- ・ 工事ごとの設計、施工計画書作成段階（変更等含む）
- ・ 労働災害発生等の過去の調査を見直す必要がある場合

情報の入手

- ・ 労働災害情報、パトロール、ヒヤリハット報告

実施段階

危険性又は有害性(リスク)の特定

- ・ 危険な事象が発生又は予見できる工種、作業等から生じるリスクの特定（洗い出し）

リスクの見積もり

リスクを評価することもKYとリスクアセスメントの大きな違いです。

- ・ 特定したリスクを「マトリックス法」、「数値化法」により評価し、**危険の程度を可視化する**

リスクの低減措置の検討

- ・ 安全な工法等への変更（**本質的対策**）
設備措置による対策（**工学的対策**）
手順書の整備等の人的対策（**管理的対策**）
墜落制止用器具の着用等（**個人用保護具による対策**）
の順に低減措置を検討

リスクの低減措置の実施

- ・ リスク評価の高いものから優先的に低減措置を実施
- ・ 低減措置後の残留リスクを評価し、残留リスクに対する対策を検討し実施

実施記録の作成

- ・ リスクアセスメント実施一覧表を作成し、次回実施の際に活用

「リスクアセスメント実施支援ツール」
（職場のあんぜんサイト）

「リスクアセスメント建設業版マニュアルのあらまし」
（建設業労働災害防止協会）

リスクアセスメントの考え方や、専門15工事種の事例、作成ツールが利用できます。



建設業労働災害防止協会が開発したリスクアセスメント建設業版マニュアルの概要が記載されたパンフレットです（ページ中ほどの同タイトルのパンフレットをご覧ください）。

